

0437

徵  
兵  
令

朕惟、  
 身、  
 固、  
 權、  
 建、  
 有、  
 海、  
 今、  
 創、

0439

海外各國 民之對酌 全國衆  
 法 諸 國家保護 具  
 欲 汝有官自司導 朕心鑑  
 普 之 全國 告諭  
 明治五年壬申十月

徵兵告諭

伐

朝上古ノ制海内舉テ兵ナラサルハナレ有事ノ

日

天子之カ元帥トナリ丁壯兵役ニ堪ユル者ヲ募

リ以テ不服ヲ征ス役ヲ解キ家ニ歸レハ農タリ

エタリ又商賈タリ固ヨリ後世ノ雙刀ヲ帶ヒ武

士ト稱レ抗顔坐食レ甚レキニ至テハ人ヲ殺シ

官其罪ヲ問ハサル者ノ如キニ非ス抑

神武天皇珍彦ヲ以テ葛城ノ國造トナセシヨリ



爾後軍團ヲ設ケ衛士防人ノ制ヲ定メ神龜天平  
 ノ際ニ至リ六府二鎮ノ設ケ始テ備ル保元平治  
 以後朝綱頹弛兵權終ニ武門ノ中ニ墜テ國ハ封  
 建ノ勢ヲ爲シ兵農ノ別ヲ爲ス降テ後世ニ  
 至リ名分全ク泯没シ其弊勝テ言フ可カラス然  
 ルニ大政維新列藩版圖ヲ奉還シ辛未ノ歲ニ及  
 ビ遠ク郡縣ノ古ニ復ス世襲坐食ノ士ハ其祿ヲ  
 減シ刀劔ヲ脱スレテ許シ四民漸ク自由ノ權ヲ  
 得ヤシメントス是レ上下ヲ平均シ人權ヲ齊一  
 ニスル道ニレテ則チ兵農ヲ合一ニスル基ナリ

是ニ於テ上ハ従前ノ上ニ非ス民ハ従前ノ民ニ  
 アラス均シク皇國一般ノ民ニレテ國ニ報ス  
 ルノ道ニ固ヨリ其別ノカルヘシルソ天地ノ間  
 一事一物トレテ税アラサルハナレ以テ國用ニ  
 充ツ然ラハ則チ人タルモノ固ヨリ心カヲ盡シ  
 國ニ報ヒルルヘカラス而人ノ之ヲ稱シテ血税ト  
 云フ其生血ヲ以テ國ニ報スルノ謂ナリ且ツ國  
 家ニ災害アレハスモ其災害ノ一分ヲ受サル  
 得ス是故ニ人々心カヲ盡シ國家ノ災害ヲ防シ  
 則チ自己ノ災害ヲ防クノ基タルヲ知ルヘシ

苟モ國アレハ則チ兵備アリ兵備アレハ則チ人  
 其役ヲ就カリルヲ得ス是ニ由テ之ヲ觀レハ  
 兵ノ法タル固ヨリ天然ノ理ニ由テ偶然作意  
 法ニ非ス然而レテ其制ノ如キハ古今ノ斟酌  
 時ト宜ヲ制セザルハカラス西洋諸國數百年  
 來研究實踐以テ兵制ヲ定ム故ヲ以テ其法極  
 精密ナリ然レドモ政體地理ノ異ナル懸ク之  
 用ヲ可クシテ故ニ今具長スル所ニ取リ昔  
 軍制ニ補ヘ海陸二軍ヲ備ヘ全國四民男兒  
 歳ニ至ル者ハ盡ク兵籍ニ編入シ以テ緩急

用ニ備フハ、郷長聖正傳々此御趣意ヲ奉  
徴兵令ニ依リ民庶ヲ諷諭シ國家保護ノ大本ヲ  
知ラシムヘキモノ由

明治五年壬申十一月廿八日

太政官

徵兵令

緒言

兵ヲ徵スルノ方法ハ國家ノ大典忽ニスヘリラ  
 サル者ニシテ又之ヲ實踐ニ行スノ難キ固ヨリ  
 言ヲ俟タス其法タル古今其制ヲ異ニシ各國其  
 趣ヲ同フヒスト雖所要スルニ一ニ民兵ニ因ラ  
 サル者ノシ野謂民兵ニ二種アリ曰壯兵曰賦兵  
 是ナリ賦兵ナル者ハ全國ノ丁壯ヲシテ兵役ヲ  
 帶ハシノ陸軍ノ兵員ヲ充タシ其内沿海ノ住民  
 舟楫波濤ニ慣レシ者ヲ以テ海軍ノ兵員ニ充ツ

文

兵

一

緒言

臣

臣

臣

而シテ壯兵ハ自ラ兵役ヲ望ミ出シ者ニシテ服  
 役數年ヲ帶ヒ普ク武技ニ熟練シ一團精兵トナ  
 リ頗ル其便益ヲ得ル然レ後日ニ至リ或ハ弊害  
 ヲ生スル無キ能ハス是故ニ壯兵ノ法ヲ廢シ賦  
 兵一般ノ制度ヲ建シト欲ス竊ニ各國賦兵ノ制  
 ヲ考フルニ大率服役八年乃至二十年ヲ以テ程  
 度トス今

國朝實ニ始テ賦兵ノ大典ヲ起カシトスルニ方  
 リ兵役ノ久シキ恐ラクハ人民生活ノ業ヲ妨害  
 シ且ツ當今ノ國力ニ於テモ關係無シト謂フハ

0442

カラス爰ニ於テ斟酌其宜ヲ録リ折衷其要ヲ拔  
示 十 現今實際ニ行フノ法ヲ定メ題ニ徴兵令ト

支那ノ歴史

徴兵編成并概則

徴兵ハ國民ノ年甫ノテ二十歳ニ至ル者ヲ徴シ  
 以テ海陸兩軍ニ充タシムル者ノリ今爰ニ陸軍  
 ヲ大別シテ三種トナス其一常備軍其二後備軍  
 其三國民軍是ノリ又其兵丁ノ身材ニ從ヒ五派  
 ノ兵種ニ區別ス曰砲兵曰騎兵曰歩兵曰工兵曰  
 輜重兵而シテ各種ノ兵皆各管鎮臺ノ國郡ヨリ  
 召集シ若干年ノ役ヲ帶ハシノ所管鎮臺ニ備ヘ  
 以テ地方ノ守衛ニ充ツ

其一

改兵令 一 陸軍



符  
ノ  
一  
目  
ノ

常備軍ハ本年徴兵ノ抽籤ヒシ者ヲ以テ編成シ  
三ヶ年ノ役ヲ帶ハシムル者トリ

第一條 在營中定額ノ日給ヲ與ヘ其他服

類共官費タルヘシ

第二條 強壯ニシテ技藝ニ熟シ行狀正シ

キ者ハ拔擢シテ近衛兵ニ充ツ

但近衛兵規則別ニ記ス

第三條 士官ノ望アル者ハ願ニ從テ檢査

ノ上管下教導隊ニ入レ學業進歩

ノ上ハ上下士官ニ任ス

第五條

技藝、熟シイ氣アリ者ハ人撰ヲ以テ其隊ノ下士官ニ任ス

第六條

下士官ニ任ヒラレタル者ハ吏ニシテ三年以上ノ役ヲ帶ハシメ後備

兵籍ヲ除ス最其人材ニ從テ後備

軍ノ上下士官ニ任ス

第七條

兵卒ハ惣テ三年以上ノ服役ヲ有ス

ト雖モ大平閑暇ノ時ハ服役ニケ

年以上ニシテ技藝熟練スル者ハ

詮議シ歸休ヲ許ス

改  
兵  
令  
二  
五  
百  
九

0451

符  
身  
八  
一  
附  
耳  
茶

歸休證書并規則

年号

何府縣何郡所住居何族或職業

常備第何番

親名何男或兄叔伯名弟甥又死介

徵兵

入營第何番

何 某

右入營以來操練ニ勉勵ニ其他勤方宜敷候ニ月  
向キ何々月ノ間休暇申月候最非常ノ節ハ布令  
次第早々歸營可致事

年号月日

第何軍管

何鎮臺

## 第一則

銃器服類屬具共保存ノ手當ヲナ  
シ姓名番号ヲ記シ一ツ書ニシテ

給養士官ニ引渡シ置クハレ

## 第二則

歸休中ト雖モ在營ノ心得ヲ以テ  
他出スルモ其管内ヲ出ルヲ禁ス

## 第三則

歸休中萬一病氣ニテ期限通り歸  
營相成リ難キ者ハ醫師ノ証書及

ヒ府縣ノ証印ヲ以テ届出ハシ若

又父母ノ重病并ニ死没等止ムヲ

得サル更故出来ノ者ハ醫師ノ証

大

三

一

書并ニ其事故係ハル親族及  
府縣ノ証印ヲ以テ額出ル者ハ証  
議ノ上日數ヲ定メ之ヲ許ス

其二

後備軍ハ常備軍三ヶ年ノ役ヲ勤メ終リシ者ヲ  
以テ編成シ常ニ家居シ産業ヲ營マシム復之ヲ  
別テテ二種トノス曰第一後備軍曰第二後備軍  
是ナリ

第一後備軍ハ二ヶ年ノ役ヲ帯ハシメ戰時ニ當  
リテハ直チニ召集シ常備軍ニ加ハ其員ヲ充具

0453

セシハ可キヲ以テ一歳ニ一度屯營ニ召集シ其  
技ヲ復習セシムル者ナリ

第一條 屯營中ハ定額ノ日給ヲ與ヘ其他

服類共官費タルヘシ

第二條 技藝ニ熟シ才氣アル者ハ服役中

同軍ノ下士官ニ任ス

第三條 復習ヲ終ヘ歸郷ノ節ハ銃器服類

屬具共保存ノ手當ヲナシ姓名番

号ヲ記シ一ツ書ニシテ給養士官

ニ引渡シ置クヘシ

文  
六  
ハ  
二  
四  
一  
七  
五  
自

第四條

服役中他出スルモ管内ヲ出ルヲ

禁ス若シ止ムヲ得サル事故アル

時ハ其鎮臺ニ願出免許ヲ請フ

シ最復習期限ニ妨碍スヘカラフ

第二後備軍ハ第一後備軍ニク年ノ役ヲ勤メ終

リシ者ヲ以テ編成シ尚ニク年ノ役ヲ帶ハシメ

全國大舉ノ時ニ當リ召集スヘキ兵タルヲ以テ

平時屯營召集ヲ要セザル者ナリ

但服役中自己ノ管内ノ出ル時ハ出入并ニ

其往ク先キ其詳細ニ其鎮臺ヘ届出ヘシ最

第一 後備軍非常屯康ノ節ハ早々管内へ歸

ルヘシ

總テ徴兵ノ服役期限ニ滿ル者ト雖モ戰時ハ勿  
論非常ノ事故アル時ハ其期ヲ延サ、ルヲ得ス

其三

國民軍ハ常備後備兩軍ノ外ニ全國ノ男兒十  
歳ヨリ四十歳迄ノ者悉ク兵籍ニ載セ置キ全國  
大舉ノ役アルニ方リ均シク隊伍ニ編入シ以テ  
管内ノ守衛ニ供スル者ナリ

改  
五  
陸  
軍  
官



律  
考  
卷  
之  
四  
陸  
軍  
ノ  
制

第 一 章 徵兵官員并職掌

第 一 條 徵兵使

陸軍中佐或ハ少佐ノ内一人之ニ任シ府縣  
下出張ニ知事令參事ト議シ徵兵ノ諸務ヲ  
總管ス

但時宜ニ由リテハ副使ヲ遣ハシ代理  
ヒシム

第 二 條 徵兵副使

陸軍大中少尉ヲ以テ之ニ任ス人負ハ巡廻  
府縣ノ大小ニ應シ正使ヲ佐ケ議官及シ

等軍醫副以下ノ醫官ト共ニ郡邑ヲ巡行シ  
徵兵規則内ノ事件ヲ決議シ抽籤等ノ事ヲ  
掌ル

第三條 書記

陸軍中少録ヲ以テ之ニ任ス人員ハ二人乃  
至三人トス徵兵使ノ書記録ヲ掌ル

第四條 議長

府縣ノ知事令參事ノ内一人之ニ任ス徵兵  
ノ事ニ付審斷判決ノ事ヲ掌ル

第五條 議官

改 兵 八

六

七

五

分

和  
令  
陸  
軍  
省

典事屬ノ内ヲ以テ之ニ任ス人員ハ徵兵副  
使ノ數ニ准ス徵兵副使ト共ニ郡邑ヲ巡行  
シ職掌議長ニ亞ク

第六條 議負

戸長或ハ副戸長ヲ以テ之ニ任ス人員ハ大  
抵其檢査スル所ノ區數ニ倍ス最時宜ニ由  
テ増減シ公文ヲ布達シ民情ヲ上伸スル事  
ヲ掌ル

第七條 二等軍醫一人

徵兵使ニ從ヒ兵丁ノ身材骨格兵役ニ適ノ

ルヤ否ヲ検査スル事ヲ掌ル

第八條

一等軍醫副ヨリ試補ニ至ル

徴兵副使ニ從ヒ郡邑ヲ巡廻ス職掌ニ等軍

醫ニ同シ人員ハ徴兵副使ノ數ニ准ス

第九條

備醫

府縣ノ撰ヲ以テ之ヲ命ス人員ハ其検査ス

ル所ノ區數ニ准シ軍醫ニ從ヒ地質ニ生ス

ル所ノ疾病ヲ上告シ兼テ史生ヲ助ケ検査

ノ事件ヲ記録ス

第十條

史生

改  
天  
シ  
七  
重  
臣  
自

行 身 令 百 四 十 九

府縣ノ撰ヲ以テ之ヲ命ス人員適宜ニ任ス  
ト雖ト大抵議員ノ數ニ准シ検査抽籤中ノ  
件々ヲ記録スル事ヲ掌ル

第十一條 徴兵使并ニ議長二等軍醫ハ各府縣  
ニ滞在シ徴兵ニ關スル諸務ヲ總裁ス書記  
之ニ屬ス副使議官一等軍醫副以下傭醫共  
組ヲ立テ各區ニ分行スル者トス

第十二條 徴兵諸官ハ一歳ノ徴兵事務ヲ竣  
ハ悉ク職ヲ解ク者トス

第二章 徴兵使巡行兼検査前事務

第一條 徴兵使巡行ハ二月十五日ヨリ始メ第

一章中第一條第二條ニ揭示シタル陸軍武

官并ニ軍醫等一行トナリ府縣ニ出張シ地

方ノ諸官ト合議シ徴兵署ヲ設ケ常備ノ定

員ヲ充タスヲヨリ後備軍ノ出入免役願出

ノ者等總テ徴兵ニ關スル事務ヲ裁判ス其

出務ノ時間ハ大抵本省ニ准スト雖モ速ニ

事務ヲ竣ルヲ要スルヲ以テ時刻ヲ變易ス

ルハ時宜ニ由ルヘシ

第二條 代人料上納兵役免除ヲ願出シ者ハ第

徴兵使官廳

程 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

六章中ノ第十五條第十六條ニ揭示シタル  
書面ヲ以テ寫ト取ルシ聞届ノ上連名簿中  
本人姓名ノ上ニ徵兵署免役ノ檢印ヲ押ス  
ハシ

第三條 府縣ヨリ陸軍省へ差出シタル徵兵連  
名簿ヲ照シ當府縣ニ於テ當年徵兵幾人其  
内兵種相當ノ人員及ヒ補充ノ員數ヲ算定  
シ又免役連名簿并ニ箇條書取ルシ中ニ就  
テ學徒ハ學校ノ証書及ヒ科目免許書等點  
檢ノ上紛レナキ者ハ姓名ノ上ニ徵兵署免

役ノ換印ヲ押スヘシ

第四條 徴兵ニ採ルヘキ者ハ皆軍人ヲ以テ處

置ス故ニ免役規則ニ適スル者ヲ除クノ外

如何ナル苦情之レアルトモ決シテ聞届ク

ヘカラス最戸長ヨリ故障詳細書ヲ以テ申

立ル者ハ此限ニアラス

第三章 常備兵免役概則

第一條 身ノ丈ウ五尺一寸尺曲未滿者

第二條 羸弱ニシテ宿痼及ヒ不具等ニテ兵役

ニ堪サル者

改

六

九

七

三

八



律  
兵  
令  
二  
附  
軍  
省

第三條 官省府縣ニ奉職ノ者

但等外モ此例ニ准ス

第四條 海陸軍ノ生徒トナリ兵學寮ニ在ル者

第五條 文部工部附拓其他ノ公塾ニ學ビタル

専門生徒及ヒ洋行修業ノ者并ニ醫術馬醫

術ヲ學ブ者

但教官ノ証書并ニ何等科目ノ免許書

アル者科目ノ等未定

第六條 一家ノ主人タル者

第七條 嗣子并ニ承祖ノ者

第八條 獨子獨孫

第九條 罪科アル者

但徒以上ノ刑ヲ蒙リタル者

第十條 父兄存在スレ共病氣若クハ事故アリ

テ父兄ニ代リ家ヲ治ル者

第十一條 養子

但約束ノミニテ未タ實家ニアル

者ハ此例ニアラス

第十二條 徵兵在役中ノ兄弟タル者

第四章 徵兵検査

改 兵 令 十 一 章 自



勿論同居ノ祖父母兄弟妻子及上代神宗門  
 等書載ヒ人別表ト稱ハ検査ノ時各個持参  
 シ軍醫ニ渡スヘシ  
 區々ニ渡レタル邦紙ノ残りハ徵兵事務  
 竣ルノ後府縣廳ヘ送納スヘシ  
 人別表

河内府縣區換或職費

徵兵

職名 年 月 日 生 誕 月 日 代

年 月 日

生 誕 月 日

川 原

新名河内府縣區換或職費又厄介

	親		祖		兄弟	妻子
	男	女	男	女		
但産國ト當時ノ貫屬府縣ト異ナル者 表首何郡所産ト書スルノ上ニ其産 國ノ府縣ヲ加ハ若又寄留スル所ニ於 テ服役スル者ハ何郡所住ト書スル 替リニ其寄留スル府縣及ヒ何郡所寄 留ト書スルハ	神		宗		門	

第三條 徵兵ノ體質ヲ検査スル時ハ徵兵副使  
議官各一名列坐検査ノ件々ハ総テ軍醫ノ  
專任タルヘシ

第四條 徵兵検査ノ席ニ出ル時ハ各個人別表  
ヲ所持シ醫官ニ渡ス醫官ハ書記ヲ掌トル  
者ニ渡シ姓名ヲ検査簿ニ留メシメ身体骨  
格検査ノ件々ヲ記セシム

第五條 検査呼出シノ時ニ病氣ニテ出席成リ  
難キ者ハ其家ニ就キ診断ノ上一時或ハ固  
着等ノ病質ヲ糾シ一時病氣ノ者ハ翌年ノ

改

六

ノ

十一

陸

軍

省

徵兵ニ廻シ固着ノ者ハ免役規則病癒ノ者  
同断タルヘシ

第六條 検査呼出シノ時ニ父母ノ喪ニ罹リ未

タ三週間ヲ過キサル者或ハ父母ノ重病及

ヒ一家ノ安危ニ係リ一時止ムヲ得サル事

故出来ノ者ハ夫々詳細書及ヒ戸長ノ証印

ヲ以テ願出ル者ハ翌年ノ徵兵ニ廻スヘシ

但翌年ニ廻スヘシ徵兵ハ府縣毎ニ別

簿ニ認メ徵兵署ノ検印ヲ押シ府縣廳

へ留置キ當冬ノ徵兵連名簿ト共ニ陸

軍首一差出スヘシ

第七條

徴兵署ニ隔リタル郡邑ハ副使一等副

以下ノ軍醫議官及ヒ史生一行トナリ郡邑

高ニ應シ分界ヲ立テ組ヲ分テ巡廻セシメ

相應ノ場所ニ於テ假ニ検査場ヲ設ケ其式

本署ニ異ナルナシ

第五章 抽籤并算筆試験

第一條

身体検査終リタル後検査簿ヲ案シ兵

役ニ適スヘキ者ヲ点檢シ府縣毎ニ常備抽

籤召集ノ為ノ其定日及ヒ場所共三日以前

上



徵兵令 陸軍省

ニ布達スヘシ

第二條 抽籤ノ場所ハ府縣下或ハ管内便宜ノ

地ヲ以テス

第三條 抽籤ヲ五種ニ分テ其身材ニ從ヒ歩騎

砲工輜ノ籤ヲ抽カシム

第四條 本年常備ノ缺員ヲ補フ為ノ補充兵ト

シテ一ケ年ヲ期トシ常備一ケ年ノ徵員ニ

分ノ一以内ノ員數ヲ常備籤ト同時ニ抽カ

レハ

第五條 抽籤ノ法ハ籤トシテ調ハ左式雛形ノ如

0473

ノ籤札ニ員數丈クノ番号ヲ記シ籤箱ニ  
 納リ籤簿方ノ側ニ置キ區分ケ或ハ郡分  
 ニシテ混雜モサル様一人宛之ヲ抽カシメ  
 籤簿方ハ始終籤簿ニ對シ抽籤ノ止不正ヲ  
 檢シ抽ト舉レハ其番号ノ自ラ高聲ニ唱ヘ  
 シノ籤札ヲ受取り籤簿ニ姓名番号ヲ記シ  
 復當人ニ返ス  
 假令ハ籤丁五百人ナル片ハ第一番ヨリ  
 五百番迄ノ札ヲ納レ之ヲ抽カシム本年  
 常備定員二百人補充百人ナル片ハ二百

律令 卷之四 官制

番迄ノ籤ヲ抽キシ者ヲ常備トナシ二百  
一番ヨリ三百番迄ノ籤ヲ抽キシ者ヲ補  
充トシ其餘ヲ以テ落籤トス

何番  
(歩) (騎) (砲) (工) (船)

籤札ハ厚紙縦横三ツ或ハ  
四ツ切ニシテ四ツ折ニナ  
シ中分ヲ檢ル

第六條 抽籤當日病氣ノ者ハ其親或ハ親族時

トシテハ戸長ヲ以テ代人トス

第七條 籤丁ニ當府縣ニ於テ常備幾人補充幾

人及ヒ籤丁、総員幾人ト抽籤以前ニ申聞  
セ置クヘシ

第八條 抽籤終リ常備及ヒ補充ニ當リタル者

ハ書翰往復算術等出来得ルヤ否ヤヲ試ム

ハシ

第九條 書翰并ニ算術ノ試験ハ史生ノ内算術

ヲ心得居ル者ヲ撰任シ試験場ヲ設ケ上下

二等ニ區別ス其仕法ハ二五行ノ翰牘ヲ讀

ム易ヤ様三四枚認メ并ニ十露盤等備ヘ置

キ一人宛算筆ノ内出来得ルヤ否ヤヲ問ヒ

改  
五  
壺  
車  
自

省  
下  
ノ  
ノ  
ノ

出来得ル者ニハ右翰牘ヲ讀マシメ無滞讀  
 之得ル者ヲ上等トシニ字以上誤ル者ヲ下  
 等トス算ハ除法(即ハ算見一)以上出来得ル  
 者ヲ上等トナシ其以下ヲ下等トナス  
 第十條 試験全ク終ルノ後籤簿ヲ照シ人別表  
 卜引合セ姓名住居其他左式雛形ノ如ク厚  
 紙長サ五寸幅三寸ノ郵紙ニ陸軍徴兵署卜  
 題シタル割符ニ書載ヒ籤簿ニ引合ヒ割印  
 ヲナシ番号并ニ服役年期ヲ書知、籤簿順  
 ニ呼出シ籤札ヲ出サシメ相違ナク者ハ

割符

0478

徵兵令	月	号	年	何府縣何郡所住居何族或職業	親名何男或兄叔伯名弟甥又元介	各種	隊號	第何番	何某	番号割符	籤札ト右番号割符ト引替ヘ相渡ニ第六章 第一條ニ揭示シタル如ク各個入營致ス ハシ

陸軍省

日

署

右何鎮臺常備軍三ヶ年服役申付候事

補充籤ヲ抽キシ者ハ 右何鎮臺補充

兵一ヶ年服役申付候事

第一後備軍ニ入ル者ハ 右何鎮臺第一

後備軍ニヶ年服役申付候事

第二後備軍ニ入ル者ハ 右何鎮臺第二

後備軍ニヶ年服役申付候事

第十一條 補充役ヲ命セ...

歸居ニ落籤ノ者ト異ナルノニ常備缺員

ノ節ハ其鎮臺ヨリ籤頃ニ布達ニ何時ニテ

モ入營ナリシムハキニ月服役中ハ自分ノ

管内ヲ出ルヲ禁ス

但服役ヲ命セラレタル其日ヨリ一々

年目ノ其日迄ニ常備入營ヲ命セラレ

サル者ハ其役除籍ト心得ヘシ

第十二條 補充ヨリ常備軍ニ命セラレタル者

ハ矢張り補充抽籤其日ヨリ三ヶ年ノ期ヲ

保ツハシ

女

十七 陸軍



陸 一 兵

ノ

陸 一 兵

ノ

第十三條 本年常備軍満期ノ者ハ出營ノ日後

備籤ヲ抽カシメ以テ番号ノ順序ヲ定ム而

シテ常備役ノ番号割符ニ満期ノ檢印ヲ押

シ後備軍ノ番号割符ヲ相渡スハシ

但當日病氣ノ者ハ其戦友ヲシテ之ヲ

抽カシム

第十四條 本年第一後備軍満期ノ者ハ第二後

備軍ノ籍ニ入ルヘキヲ以テ第二回屯營復

習ノ節第一後備役ノ番号割符ニ満期ノ檢

印ヲ押シ第二後備軍ノ番号割符ヲ相渡ス

但病氣ニテ不参ノ者ハ戦友ニ之ヲ渡  
ス

第十五條

第二後備軍ノ番号割符ヲ受ケニケ

年目ノ其日ヨリ第二後備軍ノ籍ヲ除セラ

レシ者ト心得ヘシ

第十六條

本年各府縣ニ於テ徴兵事件全ク竣

ルノ後徴スル所ノ兵員ヲ精算シ兵種ヲ分

チ左式雛形ノ如ク罫紙ニ各個持參致シタ

ル徴兵人別表ヲ寫シ取り身体検査簿算筆

改

五

ノ

一

一

陸

軍

首

0483

親或兄姓名 本人姓名	生所	住國	族親	職業
何某				
同				
同				
同				

試驗簿及ヒ籤番号ヨリ顔額其他題号ノ下  
 ニ悉ク書載セ人別明細連名籍ヲ認メ常備  
 補充ヲ區別シ一府縣ニ纏メ各二部ヲ作り  
 陸軍省及ヒ所管ノ鎮臺ニ差出スヘシ  
 但鎮臺ニ渡ル人別明細連名籍ニ籤  
 簿相添ヘ四月十五日迄ニ差廻スヘシ

0484

顔	兵卒明細連名籍	番号		検査		妻子	兄弟		祖		親		宗門	氏神
		入營	常備	算筆	不備		女	男	女	男	女	男		
廣潤等字	陸軍省													

改  
六  
十九  
陸軍省

符	額	眼	鼻	口	頤	髮	眉	痘	別徵
	長短廣狹扁凸等字	大小銳鈍凹陷凸起舉 垂細圓等字	隆甲大小元尖彎凹鼻 高低鼻翼大小鼻柱鼻尖 大小等字	大小上下唇厚薄露 滿等字	長短尖圓張彎曲 等字	濃淡疎密茶褐卷 縮等字	濃淡疎密長短細 大等字	天然種	

第十七條 本年徵兵出席ノ名簿ヨリ代人料上  
納名簿免役名簿其他種々ノ願書及シ簡書

區長戸長、取調、証書惣テ徵兵ニ關スル  
書類ハ一切ハ別明細連名籍ト共ニ陸軍省  
ニ差出ス

第六章 徵兵雜則并扱方

第一條 常備籤ヲ抽クタル徵兵ハ四月廿日ニ

リ五月一日迄ニ入營致ス、其營所迄ハ

府縣毎ニ區括シ、シテ戸長副戸長、内台

連シ出ヘシ最營所ニテハ籤ノ番号ヲ目的

ニ入營ノリシムヘシ、月瀬縣ナキ者ハ銘

々勝手ニ入營致スヘシ夫迄ハ入費ハ總

支  
出  
金  
目  
録

府縣ニテ辨スヘシ若シ事故アリ入營遲緩ニ及ブ片ハ其事故ヲ生スル所ヨリ辨スヘ

但書中區括リト稱スル者ハ區ノ大小人口ノ疎密ニ由リ二區或ハ三四區括リ總テ府縣ノ便利ニ從フ

第一條 職ノ番号ハ服役中ノ目的タムヘキヲ

以テ各個ノ寧ニ所持致スヘキ

第三條 病氣或ハ事故出來期限通リ入營相成

リ難シ者ハ其段詳細ニ書證ノ區長及ヒ具

病氣事故ニ係リタル者ノ証印ヲ以テ至急ニ其鎮臺ニ届出ヘシ

第四條 常備軍服役在營中其身元轉居スル月

ハ其隊ノ軍曹ニ届出ヘシ歸休中ノ者ハ第

九條第一後備服役中轉居ノ届同斷タルハ

ニ最其隊ノ軍曹ニ同様届出ヘシ

第五條 常備軍服役中歸休郷里ニ在テ死没ス

ル者ハ其親戚ハ兄叔伯ニテモ首ニシ者ヨ

リ當入營所ノ士官及シ其鎮臺ニ届出ヘシ

第六條 常備軍在營中病氣ノ者ハ軍醫ノ診斷

數兵 陸軍省



ヲ以テ病院ニ入レ治療セシメ其上ニテ兵  
 役ニ堪ヘ難キ者ハ兵籍ヲ除ス、之最歸縣  
 迄ノ旅費ハ定則ニ照準シ賜ルハシ

## 第七條

父母ノ重病或ハ非常ノ事故出来一時

止ヲ得ル歸省ヲ願フ者ハ其親或ハ親族

ノ者ヨリ府縣廳ノ奥書証印ヲ以テ所管ノ

鎮臺ヘ願出ルニ於テハ詮議ヲ遂ク許可ス

ハシ最滞郷日數ハ往來ヲ除クノ外三週間

ヨリ長カルヘカラス

但旅費ハ往來共自辨タルハシ

0490

續書案文

何有無何那西信何發發案

何 某

右私

物年

何年

ヨリ

御臺

常備軍

入營

罷在

候處

又或ハ

母何

某病氣

大切云

々二

月或ハ

何々

ノ事故

出来

二

月何

卒御

規則

之日

數御

暇被

仰

月度

奉

願上

候以上

年号月日

何鎮臺

御中

何某印

律 兵 令 一 陸 軍 省

前書之通相違無御坐候以上

同日 何府縣印

第八條 第一後備軍ノ復習期限ハ年々十日以

前ニ其鎮臺ヨリ布達シ旅費等ハ陸軍兵卒

旅費定則ニ照準シ里程ニ應ニ相渡スベシ

若シ病氣或ハ事故出來ノ者ハ第三條ノ通

リ届出ヘシ

第九條 後備軍服役中轉居スル内ハ受ケ送リ

双方共戸長ノ姓名奥書証印ヲ以テ其鎮臺

へ届出ヘシ

0492

田其管内ヲ出ルヲ禁ス

右書案文

私儀此度何郡所ノ轉居住候間此段  
御届申上候以上

年号月日

年号第一後  
御弟何番  
何某印

何鎮臺

御中

前書之通相違無御坐候以上

同日

送り何郡所長

何某印

同日

受何郡所長

何某印

致  
右  
六  
二

日三  
陸  
軍  
省

第十條 後備軍服役中ノ者若シ官省府縣ヨリ  
 登庸ヒント欲スルハ其官廳ヨリ其鎮臺  
 一 掛合フヘシ

第十一條 後備軍服役中死没ハ親或ハ兄叔伯  
 ニテモ育ニシ者ヨリ届出ヘシ若シ又後備  
 軍服役中國禁ヲ犯シ或ハ脱走等ノ者アル  
 ハ其府縣廳ヨリ箇條書ヲ以テ陸軍省及  
 七所管ノ鎮臺ニ届出ヘシ

第十二條 全國ノ男兒齡一七歳ヨリ國民軍籍  
 ニ入り外冠或ハ有事ノ時ニ當リ隊伍ニ編

0494

文

六

一

廿四

三

一

一

管内守備トシテ、  
 歳ノ冬十一月十日迄ニ其親或ハ兄叔伯ニテ  
 モ育ニシ者ヨリ戸長ヘ左式ノ通り届出ヘ  
 最一家ノ主人タル者ハ自分ヨリ届出ヘ  
 戸長之ヲ取調ヘ十一月廿二日迄ニ所轄ノ區ヘ差  
 出シ區長点檢ノ十一月三十日ノ限リ區格  
 リニシテ府縣廳ヘ差出シ翌年ノ成丁簿ニ  
 載セ置クヘシ

男兒十六歳ニ滿レハ其年ノ冬十一月十日  
 迄ニ各個戸長ヘ左式ノ書付ヲ以テ届出

0495

程  
兵  
令

階  
軍  
省

ハキ様府縣廳ヨリ郡々村々ニ至リ迄洩

レサル様布達致シ置クハシ

私習某儀明年十七歳ニ相成候間此

段御届申上候以上

年号月日

戸長

何某殿

戸長八十月廿日迄右角出ノ姓名ヲ一纏

シラテノ通り區長ノ届出ヘシ

當何村郡於テ賦年十七歳ニ相成候

何郡何様職業

何某印

者別冊ノ通幾名御坐候此段御届申  
上候也

年号月日

門部所長

何某印

弟何大區

御中

區長八十一月三十日迄ニ戸長ヨリノ届  
書ヲ一纏ニシテ左ノ通り府縣ノ戸籍掛  
へ届出へシ

當区内ニ於テ明年十七歳ニ相成候  
者別冊ノ通り戸長ヨリ届出候間及

故

臣 旨



0497

律  
令

進達狀也

年月日

何府縣戸籍掛

御  
某  
印

何府縣戸籍掛

御  
中

第十三條 男兒二十歳ニ至ルハ兵役ニ就クハ

キヲ以テ毎年十二月廿五日迄ニ府縣廳ニ

於テ十九歳ノ者ノ調、徴兵連名簿ニ載ス

ルトトス是故ニ十九歳ノ者ハ其年ノ十月

十日迄ニ前條十七歳ノ届式ノ如ク戸長へ

届出テ戸長十月廿日迄ニ成丁簿ニ照シ現人

ニ引合ヒ其内免役ニ適スル者ハ篤ト取調  
 ハ夫々箇條書相添ヘ區長ハ差出シ區長ハ  
 十一月三十日迄ニ區括リニシテ証印シ府  
 縣廳ヘ差出スヘシ府縣廳之ヲ点檢シ徵  
 兵連名簿ニ載ヒ十二月廿五日迄ニ陸軍省  
 ヘ差出スヘシ最免役ニ適スル者ハ區々ヨ  
 リ差出シタル免役箇條書ヲ取外シ免役連  
 名簿ヲ認メ各個箇條ヲ詳細ニ書載セ徵兵  
 連名簿ト共ニ差出スヘシ其中官員ハ其勤  
 仕スル官廳ノ名及ヒ等級學徒ハ夫々其修

業スル處ノ學校、掛合ヒ教官ノ証書及ヒ  
科目免許書等取寄セ置キ徴兵使巡行ノ日  
差出スヘシ若シ右証書科目書等之十キ  
者ハ正月中ニ呼返シ置クヘシ最洋行修業  
ノ者ハ此例ニアラス

## 戸長届書案文

當何郡ニ於テ當年十九歳ニ相成リ  
候者別冊ノ通り幾名其内免役御規  
則ニ當リ候者幾名御坐候ニ付夫々  
簡條書相添ヘ此段御届申上候以上

0050

年号月日

何某印

弟何大區

御中

區長進達書業文

當區内ニ於テ當年十九歳ニ相成候者別冊之通り姓名其内免役御規則ニ當リ候者幾名夫々箇條書差添へ戸長ヨリ届出候間爲一取調へ候處相違無御坐候間及進達候也

年号月日

何某印

故  
年  
月  
日  
何某印

律令 附 軍 省

何府縣戸籍掛

御中

第十四條 寄留スル者ノ子弟及ヒ厄介タル者

ハ現今寄留スル府縣ノ兵籍ニ入ルハシ

但本籍ニ歸リ兵役ヲ勤メシト欲スル

者ハ十九歳十一月十日迄ニ以テ段ヲ戸長ニ届

戸長ヨリ送リ書ヲ以テ本籍ニ歸ル

ハシ

第十五條 本年徵兵ニ當リ自己ノ便宜ニ由リ

代人料金二百七十圓上納願出ル者ハ常備

後備兩軍共之ヲ免ス

免役上納金ハ區長ハ差出シ府縣廳ニ

纏ノ五月中ニ陸軍省へ相納ムヘシ

第十六條 免役ヲ願出ル者ハ其親或ハ親族ノ

者ヨリ徵兵使巡行徵兵検査以前左ノ願書

ヲ認メ戸長ノ奥書証印ヲ以テ區長へ差出

スヘシ

其親或ハ親族ノ者願書并戸長

奥書案文

私<sup>男</sup>何某儀當年二十歳ニ相成服役

<sup>親族</sup>

徵兵令 陸軍省

可仕筭之延家事差支リ有之二月代  
人料金貳百七十圓上納仕候間何卒  
常備後備兩軍共御差除被下度奉願  
上候以上

年号月日

何府縣何郡何村何姓何職

何某印

陸軍徴兵署

御中

前書願出之通相違無御坐候以上

同

〃

何郡何村何長

何某印

區長進達書案上

當區内免役願出候者幾名戸長ヨリ

奥書証印ヲ以テ別冊之通り差出候

間精細吟味仕候處毛頭不都合ノ筋

無御坐候間及進達候也

年号月

門外町第何大區長

何某印

陸軍徴兵

御中

第十七條 惣テ區長戸長ノ取扱フベキ事件未

タ區長戸長ヲ差置レサル所柄ラハ區長カ

長ニ相當スル從前ノ莊屋以上ノ者ヲ以テ

文  
九  
陸軍徴兵  
御中



陸軍省

之ニ代フハシ

第十八條 徵兵ニ關スル事件ニ月年齢及七。父

母兄弟有無又 疾病其他詐偽スル者

官ヲ欺罔スルノ罪若シ又戸長或ハ區長取

調ヘ証印ノ上ハ其証印ヲナセシ官吏ハ粗

漏ノ罪尚又徵兵ノ欺妄ヲ隱匿スル者ハ其

罪最重ナルヘシ右孰シモ新律綱領ニ照準

シ其罪ヲ糾ス可キナリ

明治二十一年一月

陸軍省

9090

官版

不許翻刻

御用御書物師

日本橋通壹丁目

北畠茂兵衛